「オガニック農業」、始まる！

谷口吉光（秋田県立大学）

今回は男鹿市で始まった新しい農業の取り組みを紹介しましょう。

2 月 5 日に男鹿市役所で「オガニック農業推進協議会」の設立総会が開かれました。協議会の設立を呼びかけたのは「ひのめ市」実行委員会代表で服飾業の船木一人さん、「こおひい工房・珈音」の佐藤毅さん、「グルメストアフクシマ」の福島智哉さんの３人です。3 人とも男鹿で生まれ、学校を卒業してからしばらく県外で働いた後、故郷に帰って自営で仕事をしているＵターンです。

「ひのめ市」というのは、ＪＲ男鹿駅近くの商店街の一角を使って毎年 7 月に開かれている自然志向のマーケットのことです。普段は人通りがまばらですが、この日だけは有機野菜をはじめ地元の食材、カフェ、生活雑貨、衣服などの販売者が大勢出店し、男鹿市内外から若者や子供を連れた親子などがたくさんやってきます。「自分たちはこういう場所がほしかったんだ」という若い世代の喜びが熱気となって発散している、普段の秋田にはない「解放区」のような空間です。

そんなマーケットを 3 年続けて開催してきた彼らが提案しているのが「オガニック農業」です。変な言葉ですね。それもそのはず、この言葉は有機農業の「有機」を表す「オーガニック」と「男鹿に行く」をかけて、彼らが考え出した造語なのです。でも思いは至って真面目で、「男鹿にオーガニック農業を広め、環境にも人にも優しい地域社会を作って、観光客や移住者を呼び込みたい」という思いを込めているのです。

おもしろいですねえ。私は有機農業の研究を 30 年以上やっていますが、まさか「オーガニック」の「―」を取ったら「男鹿に行く」になるなんて考えたこともありませんでした。でも、彼らの考え方には私たちが能代で進めている持続可能な社会へのトランジションと共通する点が多いと思います。

縁あって、私は彼らの構想を実現するための相談役になり、「男鹿で有機農業を広めるにはどうしたらいいのか」と一緒に考えました。秋田県にも有機農家はそれなりにいますが、残念ながら大潟村の米農家を除けば県内各地にバラバラにいるだけで、まとまってグループを作っている地域はありません。男鹿も例外ではなく、有機農業を広めるためには農家を集めて協議会を作り、栽培技術の向上や販路開拓などの取り組むのがいいだろうという結論になりました。

幸い、この構想に男鹿市と JA 秋田みなみが賛同してくれ、生産者も 18 名参加してくれることになって、協議会設立にこぎつけました。まだ始まったばかりですが、この取り組みが男鹿に新しい風を吹き込んでくれるのを楽しみにしています。

（北羽新報「トランジションの風」 2018 年 2 月 10 日掲載分に加筆・修正した）